



自然観察

No. 85
2007
11月

目 次

・ 自然とのふれあいの楽しさを子どもたちに -----	2
・ 観察部からのお願い -----	3
・ シリーズ 小さなカタクリの大きな秘密 第二回 個体群動態の解明 -----	4
・ 2007年度地方研修会Ⅱ報告 札幌の水生昆虫(トンボ)と水環境 -----	6
・ 第18回滝野の自然に親しむ集い 決算報告 -----	7
・ 会計からのお願い -----	7
・ フィールドニュース 江別市 倶知安町 -----	8
・ 参加者の声 -----	9
・ 忘年会のお知らせ -----	9
・ ウォッチングレポート -----	10
・ 救急救命講習会のご案内 -----	13
・ 自然観察指導員講習会のスナップ -----	13
・ 観察会の流れ -----	14
・ ウォッチングプラン -----	15
・ 事務局だより 理事会だより -----	16
・ 緊急連絡先他 -----	16



カンボクの実

はじめに

「自然に親しみ、学ぶ」をモットーに行う私たちの観察会のねらいの一つには自然の保全があります。しかし、「自然の保全」への第一歩は自然に出会い、ふれることから始まります。自然とのふれあいには、危険を伴うこともありますが、五感を十分に使ってからだで感じ取り、新しい自然の姿に気付いたり、ふしぎさ驚き、美しさに感動することがさらなるふれあいに導くこととなります。

私は観察会するとき、子どもたちやあまり自然にふれたことのない大人たちには、自然のありのままに感じてもらい、その営みの巧みさ不思議さ、人とのつながりなどを知ってもらえればと思っています。

野幌森林公園の秋の親子観察会では、数コマのビンゴゲームを用意し子どもたちと歩きます。いくつかの問いかけについて、どのようなねらいで取り上げたか、関係することも添えて記してみたいと思います。

1、森のなかの空気はどんな空気？

森に入ると外とは「何か違う」と感じるものです。ただ、それが何かに気付いてもらうことから観察会は始まります。温度、風、湿度、匂い、色・・・など、季節により、また天候や時刻によりそれは異なります。その森の持つ気候（微気候）は森をつくる木や草により作られ、その気候に合った木や草が定着します。

気温の日較差は小さく、湿度は高いことはすぐ気の付くことですが、森の外と中で同じものでも違う色に見えることがあるのには気付かない人が多いようです。森の外や森の中のギャップでは直接太陽光が地表に届きますが、木の葉におおわれる林床では直接降り注ぐ太陽光以外は林冠部で葉に吸収されなかった光（反射光や透過光）が届きます。葉にはクロロフィルやカロテン、キサントフィルなどの色素があり、赤や青の光の多くを吸収します。葉が緑色をしているのは葉が緑色を、赤い色の葉は赤色の光を反射しているからです。夏の緑の濃い森と秋の紅葉や黄葉の多い森では色の世界が変わるのも理解できることでしょう。森に入ると落ち着いた気持ちにさせられるのは緑色の強く残っている光がもたらす癒し効果の一つでもあるでしょう。森の中で服や顔の色を見て、色の世界の不思議に気付いてもらうのも面白いのではないかと思います。

2、赤い実や黒い実。どんな実みつけた？

ひつつき虫はなんのためひつつくの？

木の親子はどれとどれ？

果実や種子の栄養物質の量や形、色、大きさなどは植物の繁殖のしかたに重要なかわりがあります。

秋の野幌森林公園の観察コース（大沢口～エゾユズリハコース～大沢コース～大沢口）を歩くと、赤い実ではホオノキ、キタコブシ、ナナカマド、ツルシキミ、マイヅルソウ、ユキザサ、トチバニンジンなど、黒い実ではルイヨウショウマ、ホウチャクソウ、ウドなど多くの実が見られます。このほかには、ヤマブドウ、サルナシ、ハイヌガヤのような液果、風で種子が飛び出すオオウバユリのさく果、触れると種子が飛び出すキツリフネの果実などが眼に入ります。

それぞれは繁殖の戦略としての特徴を持っていますので、その実ができるまでや、実や種子の散布について一緒に考えます。幼木の親探しもしてもらいますと世代の更新や種子散布についての興味付けとなります。

コウライテンナンショウの赤い実はよく目立ち秋の森の話題に欠かせません。この植物は成長してからだが大きくなると雄花を咲かせ、さらに大きくなると雌花を付けるようになります。花粉を生産するより種子生産には多くの栄養を使いますので、その株は翌年花を付けないか、花をつけても雄花しかつけません。

花をつけるかどうか、つける花は雄花か雌花かは春に芽ができる段階の栄養供給のされかたにより花芽形成や成長分化が決定されると考えられています。

多くの木は花を咲かせるまでに何年もかかります。オオウバユリは花が咲くまで6～8年ですが、典型的な1回繁殖型の多年生の草本で、花を咲かせ多くの種を飛ばしてしまうと前年に蓄えたエネルギーは使い果たして枯れてしまいます。種子が発芽した最初の年は細い披針形の1枚の葉。大きな数枚の葉をつけるようになると花が咲きます。前年にできた鱗茎に蓄積した栄養の量により、翌年開花するかどうかが決まるので、成長がよくなければ開花は遅くなることとなります。花が咲く前の数年間は、各年のエネルギー収支の余剰が栄養物質として蓄えられ娘鱗茎が数個つくられます。花を咲かせた本体は枯れても娘鱗茎が翌年また新しい個体として成長を始めます。この場合は実生より短年で花が咲きます。春に開花するエンレイソウも発芽してから10年ほど経ってから花をつ

けるようになりますが、これも前年までに三枚葉の個体が生産し蓄積した栄養により翌年の葉や花がつくられます。葉の生産した栄養は地下に蓄えられ、次の年の葉と花を咲かせる栄養となり、種子生産（種子自身の成熟までの過程）には花を咲かせた後にできた果実自身の生産した栄養が使われます。もし、花の咲いている時に葉と花と一緒に摘まれてしまうと、その個体はもう光合成による栄養生産ができなくなり、翌年の葉や花茎の生長に大きなダメージとなります。なお、花茎を残して葉を摘み取られた個体は、花後に作られた果実の細胞がおこなう光合成により作られた栄養で種子生産が行われます。

多年草の越年と翌年への備えの戦略は、繁殖戦略の一部としてみると興味づけられることがたくさんあります。

3、顔より大きい葉っぱは、どんなかたち？

秋の観察会ではいろいろな形と大きさの落ち葉をふみながら進みます。カサカサという音は心地よいものですが、子どもが母親の体内で聴く血液の流れる音の波長に近いためであるといえます。

落葉の踏み音は癒し効果をもたらす音でもありません。

いろいろな木の葉を拾い、多様な形や大きさを比べ葉がどのように形を進化させてきたかや、匂いや色と落葉にどんな関係があるのか参加者と一緒に考えていきます。大きさ比べを始める時には、葉はどこからどこまでかを単葉と複葉、離層形成と越冬芽の関係などにふれると葉についての新たな興味付けとなります。

4、みんなにも知ってもらいたいふしぎはなに？

子どもたちはいろいろなことを見つけ、不思議に出会います。発見したり不思議に気づいたことを褒め、ともに感動してあげることでも大事なことで、一緒に考えたり、体験することがわかる喜びに発展します。

子どもたちには自然とのふれあいをたくさんしてほしいですね。自然を生活の一部として受け入れ大切に感じてくれるよう、また、科学的なものの考え方や自然観から保全に向かう心や態度が育っていくことを期待したいものです。



観察部からのお願い

今年もまた、来年度（2008年度）の観察会予定表作成の時期が近づいてきました。観察部では、全道各地の会員の皆さんから来年度の観察会企画を広く募集いたします。今年度観察会実施の皆さんは勿論のこと、新たに観察会を企画してみたいフィールドをお持ちの皆さんから、たくさんの応募を期待します。

つきましては、今年度観察会予定表に準じ、

「月日」「観察地」「テーマ」「集合場所・時刻」「交通機関」「連絡先」等の各項目を記入し、下記宛郵送してください。

なお、保険適用（観察会集合場所から解散場所まで）の関係上、当会では、参加者を観察会開催地まで指導員の車に同乗させることは、原則として認めておりません。企画・運営にあたっては、その点に留意し開催場所および集合場所等の設定を行うよう、よろしくお願いいたします。

募集期限は11月30日までとし、12月中に観察部会で、日程調整などの検討を加えた上で、来年2月の理事会に提出する予定です。

なお、追加および訂正等につきましては、1月末まで受付いたします。

観察部 山形誠一

〒064-0946 札幌市中央区双子山1丁目12-14

※ 14ページ「観察会の流れ」を参照してください。

第二回 個体群動態の解明

専修大学北海道短期大学みどりの総合科学科

石川 幸男

動態解明に必要な生活史の理解

カタクリの個体群動態とは、個体群を構成する各個体が年月を追ってどのように推移してゆくか、ということに他ならない。

前回に示した生活史の図にあるように、開花結実したカタクリで生産された種子は散布されて越冬し、翌年に発芽してひも状の実生が発生するところから一生が始まる。この実生は成熟した個体の葉の形とは似ても似つかない形をしており、上層の落葉広葉樹林が葉を展開する前に光合成を行う。そして北海道では5月半ばころにはいち早く地上部を枯らして、稼いだ養分は鱗茎と呼ばれる地下部に蓄えて休眠に入り、翌年の春に備える。



種皮の帽子を被った実生
(写真) 竹林正昭



一枚葉の個体
(写真) 竹林正昭

そして発芽後8年ほど経過して鱗茎が十分に発達すると有性段階に達して開花する。不思議なことに、無性段階の場合は一枚葉であるのに対して、有性段階になると二枚葉になる。開花後は多くの場合は枯死することなく生存し続け、無性段階と有性段階を繰り返しながら数十年にわたって生存するとされている。

なお、これまで述べた種子由来の個体のほかに、大きな個体の鱗茎の一部が分球して新たな個体が発生することもあるようだ。この場合は、遺伝的に親個体とまったく同一のクローンということになるが、一般にそのルートの貢献度は低いと考えられる。



二枚葉で蕾を持った個体
(写真) 竹林正昭

もちろん、生活史の各段階の状態が自動的にわかるわけではない。カタクリの場合は、本州中部で精力的に調査をなさってきた河野昭一京都大学名誉教授のグループが、二十数年まえから続けてきた観察によって生活史を克明に明らかにしてきた成果が大きい。それがなければ、ラーメンの麺のような実生を探し出すことはできなかったに違いない。河野さんらが長年の観察で明らかになさってきた植物の生活史は、北海道大学出版会から生活史図鑑として発行されていることは、多くの方がご存知だろう。

地域による違いと調査テクニック

さて、こうした生活史のありようは、地域個体群によって微妙に異なっている。観察を続けている端野、旭川と黒松内で比較すると、分布限界に近い端野の個体群では小さなサイズの時代の死亡率が高い一方で新規の実生加入もそれなりにあるので、いくなれば入れ替わりの激しい個体群であり、また最大のサイズも小さくて、懸命に生きているようにみえる。

一方で旭川の個体群は小サイズの死亡率、新規加入率どちらも小さい変化の少ない個体群であったと同時に、最大サイズは端野の2倍近くまで大きくなれるようで、花も大きくて、妖艶なイメージを受けた。

黒松内も旭川ほどではないが、変化が比較的少ない個体群であった。なお繁殖様式にも相違があるのだが、この点は次回をお楽しみに。

個体の消長には一年休みもあるらしい。春先の温度に反応して鱗茎の芽が活動して地上部に現れてくるのだから、暖かな時期に地上に出てこない、ということはあるえないと考えていた。しかし、ある年の大きな開花個体が翌年になくなったので死んだのかと思っていたら、さらにその翌年にひょっこり現れたという現象が、頻繁とはいえないものの再三おこった。死亡したように見えた個体を怪しんで落葉をめぐって見たところ、落葉を突きぬけられずに、その下で白ちゃけて葉も展開できずにいる個体を見つけたこともあった。しかし、そうしたこともないのに、間欠的に現れることが時々あって、いまだに真偽に確証をもてない。

個体群の変化を追跡する場合、なるべく多くの個体を見たい。個体単位で個体群を追跡する方法も、河野さんのグループを参考にして内径1mになるように木の枠（方形枠）を作り、20cmごとにヒートン（？マーク型の紐掛け）をつけて、そこに程よい太さのゴムひもを張って、個体の位置を再現した。追跡を開始した10数年前には、短期間に効率よく観察しようとして方形枠になるべく多くの個体が入るようにしたもの、翌年に調べてみると昨年の個体と今年の個体との対応がつかず、個体単位での推移がわからなくなってしまった。端野の個体群を河野さんに見ていただいたときに、「あまり多いとどれがどれやらわからなくなるから、程よい数で、多少出てくる位置がずれてもどの個体かわかる場所を選ぶんだよ」と聞かされた。なるほど、である。

数理モデルも夢じゃない

こうした個体単位の追跡を行うことによって、



← 黒松内における個体群の一例
（写真）石川幸男

葉の大きさをいくつかの階級ごとに区切って、階級ごとに翌年への推移をまとめて個体群の動態シミュレーションを行うこともできる。モデルの構築はかなり容易で、もともとなる推移データがしっかりしていれば、ちょっと勉強すればソフトが使いこなせるだろう。アクチャカヤら（楠田ら訳）によって執筆された応用個体群生態学入門（2002年 文一総合出版）を購入すれば、行列演算をもとにしたモデルの構造の解説とともに、シミュレーションソフトもダウンロードできる。さらに、ある年に特定のサイズ階級にいた個体が翌年にどのようなサイズになるか（これを推移確率という）は、年によって変動があることは容易に想像され、複数年の観察によって推移確率の年変動もシミュレーションに加えることができるので、毎回のシミュレーションの結果にも確率的な変化がおこる。こうしたシミュレーションを複数回行うことによって（たとえば、カタクリの場合は100年間の推移を100反復など）、個体群の個体数が途中でゼロになる確率、つまり絶滅確率を求めることも可能である。最近のパソコンならば、この程度の計算はわずか数分で終わる。保全生態学の最前線では、個体群絶滅確率の推定が個体群保護の大きなツールになっている。初期的なシミュレーションでは、観察を続けている端野でも旭川でも絶滅確率はごく低かった。

地域個体群の観察は発見に満ちている。ここでのべたカタクリ個体群の動態を調査するコストは、毎年春に、時には寒さに震えながら行う現地調査後の飲み代を含めても、1年あたり数万円程度である。一番高いのは往復の交通費と食費だから、自家用車に相乗りして手作りのおにぎりを活用すればだいぶコストダウンが図れる。方形枠は、引っ掛けるパンツの丸ゴムひも込みで2,000円もあれば完成だ。その後に行う解析のためのシミュレーションは、時間をかけてじっくりデータとにらめっこをすればよい。植物の地域個体群動態の特性が誰にでも解析できるようになったのだから、植物観察をなさっている皆さんの手と眼と頭の活用方法は、20世紀に比べれば格段に広がったといっただよいのだ。

2007年度地方研修会 報告

テーマ 札幌に生きる水生昆虫(トンボ)の生態を通して水環境を考える
 実施日 2007年8月25日(土) 10:00 15:00
 場所 札幌市 西岡公園
 講師 横山 透 さん(日本蜻蛉学会・北海道トンボ研究会)

横山透さんを講師に迎え、好天の中で有意義な研修会を実施することができました。午前中はフィールドで幼虫や成虫の採集を行い、その結果7種の成虫と5種の幼虫(ヤゴ)を確認しました。採集したトンボの特徴や生態について、横山さんから説明を受けていると、通りかかった親子連れの方が興味を示して、一時臨時観察会のような形になりました。

午後は、管理事務所の会議室での研修です。はじめに採集したトンボの見分け方や生態の特徴などについて説明を受け、その後質疑応答になりました。似ているトンボの見分け方、種類による生態の違い、環境の指標としての役割、温暖化の影響など多くのことを学びました。

(大表 章二)

(概要)

フィールドで確認したトンボと幼虫

成虫 ノシメトンボ、アキアカネ、ナツアカネ、マユタテアカネ、コオニヤンマ、ルリボシヤンマ、オニヤンマ

幼虫 コオニヤンマ、ホンサナエ、コシボソヤンマ、エゾコヤマトンボ、ニホンカワトンボ

午後の研修で学んだり話題になったこと

- ・似ているトンボの見分け方
マユタテアカネとアキアカネの違い、オオルリボシヤンマとルリボシヤンマの違いなど。
- ・幼虫時代の餌の量で成虫になる年数が違う種類がある
- ・オスには副生殖器がある
- ・産卵の方法にはいろいろある
ばら撒き型や水草に産むものなど。
- ・天敵
ブラックバス、アメリカザリガニ、羽化時には鳥に食われる。アライグマの影響もある。

・環境の指標

- 生息する種類数で判断する。
- ・RDB に指定して保護しなければならないトンボは今のところない
- ・南方系のトンボが函館付近で確認されており温暖化の影響も考えられる
- ・特殊な幼虫時代を過ごすトンボ
ムカシヤンマなどがある
- ・ビオトープ作りの際に移植した植物に卵が付着して移入してしまうことがある
- ・ギンヤンマはヤンマなのに連結産卵をする
- ・シオカラトンボのガーディング

感想

西岡公園は都市部の近郊としては生息環境が多様で、トンボをはじめ多くの水生昆虫が生息しており、研修の場としてたいへん優れていると思います。ただ今回は最近の高温少雨の影響で、水が干上がってしまった箇所があり、止水性のトンボが観察できなかったのは残念でした。



フィールドでのヤゴの採集



午後の研修の様子

第18回 滝野の自然に親しむ集い 決算報告

滝野の集い会計担当 池田 政明

本年度の収支決算は下記となりました。

収入の部

項目	金額	備考
参加費	236,500	一般参加者 3,700円×50人=185,000円、3,300円×5人=16,500円 指導員 3,700円×8人=45,600円、1,800円×3人=5,400円
懇親会参加費	12,000	500円×24人
計	248,500	

支出の部

項目	金額	備考
学園利用納入金	189,670	施設利用料 76,510円、食費 83,760円、シャツ代 12,600円 新代他 6,800円、キャンプファイ-指導料 10,000円
交通・通信費	33,380	葉書・切手代 23,380円、渉外費 10,000円
事務用品・写真代	17,584	各種用紙・印刷代 12,569円、写真代 5,015円
飲食費	17,650	懇親会(ビール 6,480円、ル-カ 2,095円、麦茶 195円 ジュース・お菓子 8,880円)
保険料	11,000	200円×55人
入園料	10,360	大人 280円×32人=8,960円、子供 50円×28人=1,400円
備品	9,265	作業シート(2枚) 6,000円、軍手1,575円、ローソク他 1,690円
その他	1,570	会議室使用料 1,000円、振込手数料 570円
計	290,479	

2007年度収支決算 収入計 支出計 収支
248,500 - 290,479 = - 41,979 (繰越金より補填)

繰越金収支 前年度繰越金 今年度補填 次年度へ繰越金
232,232 - 41,979 = 190,253



会計からのお願い

会費の納入はお早めに

2007年度会費の入金がまだの方は、同封の「払込取扱票」でお願いします。
すでに入金済みの方には「払込取扱票」を同封していません。

通信欄は住所変更等の近況報告にお使いください。

振込み手数料は

- ・窓口では、120円
- ・ATMでは、80円かかります。

郵便振替口座 02710-1-8768 北海道自然観察協議会

会計 畑中 嘉輔



大型蛾・クスサンの観察記

江別市 森 繁寿

今回、紹介するのは、あまり好かれそうもない蛾の観察記である。

7月のとある日、森の散歩道一帯に小豆粒大の黒い塊が無数に落ちているのを目撃した。何か虫の糞かもしれないと思いつつ、無性に興味が湧き、虫の名前を突き止めたくなった。

おりしも真上のオニグルミの小枝に目をやると枝葉に薄緑色で長く長い毛で覆われた幼虫が無数にいて葉を食べているではないか。その状況から察し、黒い塊が幼虫の糞であることがわかった。更に、幼虫の正体を調べてみると大型の蛾の仲間「クスサン」と判明した。

一方、成虫のクスサンは翅を広げた時の大きさが約110mm、また前後の翅に一つずつ丸い紋があるのが特徴である。

そこで、私はクスサンとの遭遇を機にこの幼虫を実際に飼育して、完全変態のプロセスを観察してみたくなった。そのための行動として、オニグルミの木から幼虫数匹を我家の飼育箱に移し観察を始めたが、所詮準備不足もあり試行錯誤の連続だった。例えば、幼虫が終令期になると体長7~8cmに達し、蚕と同じ位に大量のオニグルミの葉を食べることがわかり、葉の補給が欠かせなかった。

更に、記録の面では、幼虫がいつ如何なる変化をみせるか、予測がつかずタイミングを逸してしまうことも茶飯事であった。

地道に観察を続ける中で、幾つか興味深いこともあった。例えば、終令期の幼虫がサナギになる前に、口から糸をはいて「マユ」をつくる過程やマユの中の幼虫がサナギに変わる瞬間、更には網目状のマユの中で羽化し、かたいマユから抜け出るシーン等どれも神秘的で感動ものであった。

こうした体験により、これからは蛾を見る目も変わっていくかもしれない。



(上) クスサン
幼虫 (右)
写真提供 森 繁寿



指導員のできるごと

倶知安町 矢吹 全

自然保護という言葉をよく耳にする。

指導員になって1年余り、本業の方ではガイドになって8年余り、何が出来るのか、すべきなのかをよく考える。

観察会に参加者として参加すると、自然に興味がある私達にとっては花や鳥、樹木の名前をたくさん教わることが出来て勉強になるが、参加者の中には「人に連れられて参加した」人も少なからずいる。そういう人達にとっては、今まで自然には興味がなく、ましてや「花や鳥の名前なんぞまだ別に・・・」という人も多い。

そのような人達は、名前をたくさん教わった観察会やツアーの後、自然に興味を持ってくれるだろうか？自然保護の第一歩は自然に対して興味・関心を持つことだと思う。

以前、近所の川の河畔林を伐採する計画が上がった。自然にいつも浸かっている人達は声高に反論を唱えたが、普段から自然に慣れ親しんでいない人達は「別にいいんじゃない？」「ふ～ん・・・」といった反応だった。

私は伝える立場にある。

自然に興味がない人でも、本当にそれでいいのか、どうして自然を保護すべきなのかを自分の意見として考えるきっかけを与えられるようになりたい。

図鑑的な知識を伝えることではなく、「伝えるには」「興味のきっかけを作るには」どうしたらいいのかを常に考えてツアーを行なっていきたいと思っている。



ネムロブシダマの実



中央区 藻岩山 (07/9/23)

北区 大内 和憲
蒼穹の空に罎雲が棚引く秋分の日、自然観察会への初参加は最高の気分だった。いつもなら藻岩山観光道路を、車で往復していたのだが、この度自分の足で藻岩山を登るのは初めての事だった。会の皆さん達は健脚かつ植物の知識が豊富で関心するばかりだった。

道の途中で秋の七草、ノブドウ、コクワの実、エゾノコンギク等を手に触れ、香りを楽しみ、まるで秋の宝石箱を散りばめた様なぜいたくな景色

だった。

友と山ぶどうを摘み口中真っ赤になったが幼少の頃を思い出した。山道の途中、風に乗って聞こえる寺の鐘の音、遠く円山球場の歓声が山合いに舒し、まさしく至福のひと時であった。その思いを俳句に託してみた。

風立つや風に誘はれ野紺菊
お地蔵の裏に野ぶどう房ゆれて
岩影の隅に明るき花すすき

今後も機会があれば参加をし自然に触れてみたいと思う良い日であった。



2007年 忘年会のお知らせ



この忘年会で日ごろ鬱積していることや、
ご意見をどんどん述べてください。
自然の中にいるような、楽しく、
そして気持の通い合う一時を一緒に過ごしませんか。
人の和と輪が広がります。
ご都合をつけて、ぜひご出席ください。

新しく会員になられた方には、会の様子と仲間を知る絶好の機会です。

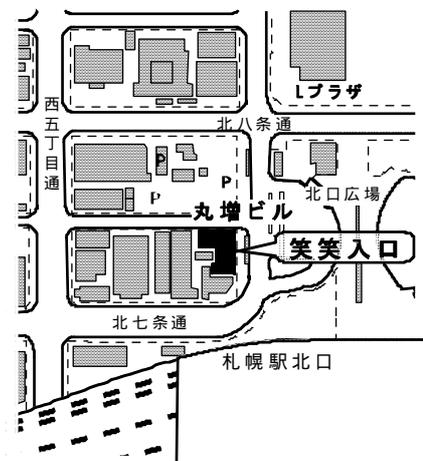
日時 2007年11月24日(土) 18:00 20:00

場所 「笑笑(わらわら)」
札幌北口駅前 札幌丸増ビル地下階
(JR札幌駅北口より徒歩2分)
札幌市北区北7西4 Tel 011-717-2088

会費 飲み放題 男性3,300円 女性3,000円
当日会場にていただきます。

出席の連絡は 事務局・須田へ Tel/fax 011-752-7217
E-mail zan00711@nifty.com

◎11月22日(木)までにお申し込み願います。



ウォッチングレポート

苫小牧市 錦大沼 07年 8月26日

天候 晴 掲載紙 道新、朝日、読売、毎日

<冬に向かったの準備>

やや曇ってはいるが晴れ。今回のテーマは冬に向かったの準備と言うことでスタート。

夏の強い日射しの場所と、樹陰の下での場所との陽光の違いを実感。樹木の効用をあらためて認識した。

この旺盛に成長をする時期に「冬に向けての準備」を始めている樹木の様子を説明。参加者の多くはこの視点で樹木を観察したことが無かったので、参考になったとの感想を頂いた。

今回観察会に初めて参加され、錦大沼公園に足を踏み入れた地元の方、東京から参加された方々は、こんな身近に素晴らしい環境の所があることを、自慢げに、また羨ましげに語っていた。

ぜひこの環境の下、観察会をもっと多く開催して欲しい旨の要望が寄せられていた。

(佐々木 昌治 記)

千歳市 紋別岳 07年 9月 1日

天候 晴 掲載紙 道新、朝日、読売、苫民報他

<秋の紋別岳 秋の花>

当日は晴で風も弱く、絶好の観察会日和でした。3班に分かれて行いました。皆が手先のものも見え、声もよく聞こえ、ちょうどよい班分けと思っています。

600m 程度の標高差があり、それなりの植生の変化も見られます。

コエゾゼミやエゾゼミの声が聞こえ、ミカドフキバツヤやクロヒカゲが飛び交います。

ハナタデ、ミソガワソウ、ミヤマセンキュウ、ノリウツギ、ヤマハハコ、クサギ、ダケカンバ、ハナヒリノキ、エゾオヤマリンドウなどを観察しながら進みます。

紅葉には少し早いものの、眼下の風景も時々見ながら登っていききました。

頂上では視野360度の眺めでした。

事故もなく、皆さんに満足して頂けたと思います。

(谷口 勇五郎 記)



風不死岳と樽前山

清田区 平岡公園 07年 9月 9日

天候 晴 掲載紙 道新

<はらっぱに造った湿原の変わる様子を観察する>

8月29日、道新の市内版に平岡公園人工湿地が大きく紹介された。観察会にも問い合わせがあり、記事の力の大きさと読者の人工湿地に対する関心の高さを感じました。

予想通り多くの参加があり、ほぼ札幌全地域、北広島と広範囲からの参加がありました。

観察会の主な出現順に、ヤマブドウの実、体の半分が引き裂かれ頭部のないネズミの死体、ルリミノウシコロシの実、コクワなど。

人工湿地でトチカガミの涼やかな白花、エゾヒツジグサの花など。先日の研修会で仕入れたトンボの産卵の話。

雑木林ではアクシバの赤い実、ナツハゼの黒い実、炭焼窯跡でコナラの株立ちの話、アキノギンリョウソウ、ニホンカナヘビのつぶらな瞳など。

解散の挨拶の時の参加者の笑顔で楽しんでいただけたかな!と思っています。

(佐藤 佑一 記)

江別市 野幌森林公園 07年 9月22日

天候 晴 掲載紙

<森に秋を探しに行こう 親子・子供特集>

夜来の雨も朝には秋晴れになり、爽やかな風が流れる中での親子観察会。今年の観察のポイントとして「木の実、草の実、ひつつきむし」をあげ、子ども向けの12コマの「秋を探すピング」を手に観察を開始。

例年より秋が遅く、紅葉もあまり進んでいないようでしたが、木の実、草の実の成熟は例年並みでした。マムシグサの実のはつやのある赤い実と熟していない緑色の実が混ざり、橙赤色と緑のコントラストが美しい。

コクワの実やキタコブシ・ホオノキの種子を拾い、ハイイヌガヤの茶色に熟した実やムカゴイラクサのむかごを手にとる。ハウチャクソウ、トチバニンジン、マイヅルソウの実も艶やかな色を見せています。

クマゲラの食痕のあったエゾマツが18号台風で倒れ見られなくなったので、かわりにエゾユズリハコースの中間に立ち枯れた木の幹にあいたクマゲラかアカゲラの食痕と思われる数個の穴を観察しました。今後も観察のポイントとしていきたい。

また、今回は、2002年の18号台風でできたギャップの自然回復の様子も観察。広い倒木地では既に倒木は片付けられ森林再生のためにと植樹されたところが多く見られました。植樹の手法や樹種は取り組んだ団体？により異なるようで、今後の経過を見るのも観察の観点の一つに入れてもおもしろいのではないかと思います。

親子の参加者が少なかったため、来年は啓宣方法を工夫していきたいと思います。

(横山 武彦 記)

中央区 藻岩山 '07年 9月23日

天候 快晴 掲載紙

<もっともっと藻岩山 藻岩山散策>

七草ねらいの観察会、と思いきやクズは最低な石(咲いていないし)。ナデシコは無くなっているし。

当初の思惑とはちょっとズレた観察会でしたが、トリカブトの花を分解して、その作りを詳しく観察したり、北海道のフジバカマとも言うべき、ヨツバヒヨドリを始めとするキク科の植物、チョウセンゴミシの実などを観察しました。



チョウセンゴミシの実

(山形 誠一 記)

厚別区 大谷地の森公園 '07年 9月24日

天候 晴 掲載紙 読売、ミニコミ誌れじおん

<秋を探そう>

快晴に恵まれ、大勢の人たちが参加してくれた。

集合場所の大谷地バスターミナルから、旧千歳線をそのまま利用したサイクリングロードを通り、大谷地神社へ移動、ここで大谷地に入殖が始まった歴史、支笏湖火山活動の噴火による大麻・厚別・大谷地にまたがる地形形成の話を聞きながら、札幌市保存樹木指定のトウヒ・カラマツ・トドマツなどを見て回りました。

大谷地の森までの道すがら、サルナシの実を発見したり、シナノキのブーメランを観察し楽しみました。

コナラの純林として、生育の北限になっているこの森の、コナラとミズナラの葉やドングリを拾い集めて、葉の形、葉柄、実、殻斗を比較・確認して勉強しました。小道の森の中では、ひつつき虫のハエドクソウやキンミズヒキの種などを、拡大鏡で仕組みを見てもらいました。

30部用意した資料が足りなくなり、参加者の好意に甘えてしまいました。

(澤田 久美子 記)

千歳市 林東公園 '07年 9月30日

天候 快晴 掲載紙 道新、千歳市民報

<手話で楽しむ観察会>

秋晴ればかばか陽気の中、手話の学習からスタート。

木・森・花など自然に関する手話表現を、ろうあ者の指導員と共に学習をし、和やかなムードになった後ネイチャーピングを行いました。

秋の装いとなった森の中を散策し、クリやノブドウの木の実などを手にとって香りを楽しみ、草花を見つけては本で名前を調べながら歩きました。

エゾリンドウ、トリカブト、オオウバユリなどおなじみの花たちも顔を出してくれました。

コース内にはサケの遡上を見ることの出来る千歳川が流れていますが、当日は残念ながらサケの姿を発見できませんでした。

秋の森林浴を満喫した2時間半は、あっという間に過ぎ、楽しい観察会となりました。

(川北 美由紀 記)

豊平区 天神山緑地 '07年10月 7日

天候 晴 掲載紙

<天神山緑地の紅葉を歩こう>

期待の紅葉にはいまいちの状態ながら、晴天に恵まれ、気持ちの良い観察会となりました。

天神山は初めての参加者が多数を占め、庭園風の公園だったことにガッカリした方もいたようですが、展望は素晴らしく、木々を間近に観察できたのは良かったと思います。



シバクリの大木 樹齢300年以上

相馬神社の300年以上というシバクリに迎えられ、珍しくヒマラヤスギにも会うことができ、植物が地球を支える為の一年の集大成とも言うべき成長や、繁殖を見ていくにつけ、「やさしさ」や「生きる」ことを、気づかせてくれる大切な時間だったことを、参加者とともに感じた一日でした。

(今村 ひろこ 記)

旭川市 嵐山公園 '07年10月13日

天候 曇 掲載紙 道新

<晩秋の嵐山を歩こう>

6月に春光台公園（旭川）で行われた地方研修会で、今後"旭川の指導員による観察会を"と言う話になり、今回その第1回を行うことが出来ました。

前日の天気予報では、「夜間に雪...」ということで、一般の方のキャンセルもありましたが、当日は穏やかな良い天気にも恵まれました。

嵐山は、カエデやウルシなどが鮮やかに色づいていて、ヤマブドウなどを食べたり、秋ならではの良さを味わうことが出来ました。時々聞こえる鳥の声にも耳を傾け、ヌキタケのお土産もありました。

また、旭川帰化植物研究会の方に、嵐山スキー場跡地の植生について、在来の植物を守る為にハリエンジュなどの外来植物を何とかしなければならぬという話などをしていただきました。

歩きながら、樹木・野草など、それぞれの分野に詳しい指導員の説明を聞き、紅葉のすがすがしい嵐山での有意義なひと時でした。

(原部 剛 記)

北区 北海道大学構内 '07年10月14日

天候 曇時々雨 掲載紙 道新HP

<秋の北大構内 エルムの秋>

昨年に続き天候に恵まれなく雨にも降られましたが、質問の飛び交う活発な観察会になりました。百年記念会館横のサクシュコトニ川沿い～弓道場横～大野池～工学部～花木園～農場横のコースを歩きました。

人工雪誕生の碑では、中谷宇吉郎博士の静子夫人が詠まれた

天からの君が便りを手にとりて

よむすべもなき春の淡雪

の句から雪の結晶を想像してもらいました。

ハルニレは黄色く紅葉するものとばかり思っていました。古川記念講堂際のエルムは何故か赤っぽい葉でした。

宮部金吾博士の名前が種小名に使われているクロビイタヤは、180度近くに開かれている種を工学部の庭で観ることができました。

18号台風で倒木の憂き目に会い立て直されたポプラは、葉が繁茂して植物の強さをみんな感じとりました。

(須田 節 記)



クロビイタヤの種子と葉

中央区 円山公園 '07年10月21日

天候 雨 掲載紙

<秋の円山公園 木の実と紅葉>

雨が降り止まず、肌寒い1日。にも拘らず集まってくれた参加者と一団となつていつものようにアサダの木の下からスタート。



傘を差しながらのドングリ探し

紅葉の仕組み、ドングリ拾いなど、今回はテーマどおりの観察会。ブナの木では、雨の日ならではの樹幹流も観察できました。

雨の日の、静かな円山公園。秋の風情を楽しんだ2時間でした。

(山形 誠一 記)

東区 モエレ沼公園 '07年10月28日

天候 晴 掲載紙

<渡り前集結の鳥たち>

晴れた日でしたが風が強く、北おおはし上の観察は取りやめました。

2000年度から記録している「野鳥チェックリスト」と、初めて試みる「カモのしぐさビンゴ」の資料を基に観察会を行いました。「カモのしぐさビンゴ」は種類にばかりこだわらないでカモの動作を観察するのが目的ですが、普通の双眼鏡では距離的に無理なようでした。

当会のモエレ沼の鳥観察会を始めてから、初めてオジロワシが2羽飛来しました。食物連鎖でいえば鳥の頂点にたつ猛禽類であるオジロワシの白い色の部分も双眼鏡で確認できて感激しました。

今年度確認の鳥は27種類でした。

カイツブリ、オオバン、マガモ、オナガガモ、コガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、ミコアイサ、カワアイサ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ウミウ、トビ、オジロワシ、ノスリ、アカゲラ、ヒヨドリ、ツグミ、シジュウカラ、エナガ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、カケス、ハシブトガラス、ゴジュウカラ

来年度は10月の第4日曜日（26日）に観察会を行います。

(須田 節 記)

《 救急救命講習会のご案内 》

責任あるガイドとしてとっさの処置ができるように受講しましょう。
以前に、受講された方も再挑戦してみませんか。

A E D（自動体外式除細動器）の使用方法も練習します。

【日 時】2008 年 2月 3日(日) 9:00～16:00

【講習会場所】：かでの2・7 920会議室
札幌市中央区北2条西7丁目

Tel 011-231-4111

【指 導】：札幌市中央消防署大通出張所
日赤北海道支部

【費 用】：日本赤十字救急救命冊子代50円

【日 程】：9:00～12:00 心肺蘇生法 A E D

人工呼吸法(人形使用)、A E D使用法講習 他。

※ 以前の受講者は修了証(カード)を持参してください。

12:00～13:00 休憩(要昼食)

13:00～16:00 救急救命

傷と止血・包帯・骨折・捻挫・熱中症・虫さされ など。

【用意するもの】：実技のしやすい服装(ジャージ他)、筆記用具、昼食。

三角巾(100円の品は小さくて不適、正式のものを)

※ この講習会は、北海道アウトドア救急救命関連講習の受講資格には該当しません。

同封のチラシにある申し込み用紙をハガキに貼付し、1月 10日必着で郵送してください。

問い合わせ：事務局 Tel・Fax 011-752-7217 E-mail zan00711@nifty.com



自然観察指導員講習会のスナップ

第405回NACS-J自然観察指導員講習会・北海道は、9月28日～30日に酪農学園大学で行われました。
新しく誕生した指導員23名が当協議会へ入会しました。



室内講義の一コマ



腕章をつけて指導員の誕生

観 察 会 の 流 れ

観察会を開く呼びかけをする



観察会について打合せをする

必要に応じ下見をする



観察部へ連絡をする

1. 観察会予定を参考に次の項目を観察部へ連絡する
開催日 テーマ 観察地 集合場所 時間(集合・解散)
注意事項 交通機関 連絡先 下見予定日
2. 観察部から観察会セットを送る
参加者名簿 一般用・指導員用(報告書付)
払込取扱票(参加費振込用)
3. 広報関係へ連絡する(各担当)
新聞社、「自然保護」、「ウォッチングガイド」[TGAL]他
当会のHP



下見をする



観察会当日

1. 名簿記入
2. 参加費 一般参加者のみ原則100円を徴収
(他行事との共催などで参加費が変わることがあります。)
3. 翌年度予定表送付の希望を聞く 切手代として100円



観察会終了後

1. 報告書・名簿を観察部へ送る
(反省、記載しない生物など十分に打ち合わせてください。)
2. 参加費から必要経費(資料代、講師料、送料など)を引いて
観察会会計へ振り込む(不足の時は観察会会計から出費する)
3. 写真をHP担当へ送る(HP、会報用)

緊急連絡先

事務局 須田 節へ連絡をお願いします。

Tel/Fax : 011-752-7217

(株)北海道保険保証は、日曜/祝祭日は定休日です。

保 険 概 要

保険会社 :

(株)北海道保険保証

Tel 011-752-7217

死亡・後遺症 :

500万円

入院保険 : (180日以内)

日額 5,000円

通院保険 : (90日以内)

日額 2,500円

連絡・送付先

観察部 :

山形 誠一

〒064-0946

札幌市中央区双子山1丁目12-14

Tel/Fax : 011-551-5481

E-mail :

seiichi.y@jcom.home.ne.jp

参加費振込先

振込口座 :

北海道自然観察協議会観察保険料

口座番号 : 2770-9-34461



2007年度 観 察 会 ('07年12月12日 ~ '08年3月23日)

※下見の日時は連絡先指導員に確認してください。

年月日	テーマ	観察地	集合場所・時刻	交通機関	下見	連絡先
12月12日 (水)	ウトナイ湖ガンカモ観察会 ゲーム感覚でたのしく ハクチョウ、水鳥などを 観察。	ウトナイ湖 レイクランド 周辺	ウトナイ湖野生鳥獣保護センター 駐車場 10:00集合~12:00頃解散 小雪決行 雪中歩行あり防寒具、長靴を用意 望遠鏡もっている方は持参願います	道南バス 新千歳空港より「苫小牧」行 またはJR苫小牧駅前より「新千歳空港」 行き乗車。 いずれも「ウトナイ湖」下車、バス停か ら徒歩3分。無料駐車場有り		遠山あづさ 0123-23-8699 (早朝、夜間のみ)
2008年 1月3日 (木)	ウトナイ新春おさんぽ会 新春一番!ウトナイ湖畔を おさんぽ気分で自然観察	ウトナイ湖 サンクチュアリ 自然観察路	ウトナイ湖ネイチャーセンター 駐車場 10:00集合~12:00頃解散 小雪決行 雪中歩行あり防寒具、長靴を用意 望遠鏡もっている方は持参願います	道南バス 新千歳空港より「苫小牧」行、 またはJR苫小牧駅前より「新千歳空港」行 いずれも「ネイチャーセンター前」下車 バス停から徒歩15分 無料駐車場有り		遠山あづさ 0123-23-8699 (早朝、夜間のみ)
2008年 1月5日 (土)	「北大構内」観察会 (親子、子供特集) 雪氷観察会	札幌市北区 北海道大学構内	北海道大学クラーク会館前 10:00集合~12:00解散 定員25名、はがきで申し込み 小3以下は保護者同伴	JR札幌駅北口から徒歩5分 地下鉄南北線 さっぽろ駅、北12条駅から 徒歩10分 (北大構内は駐車禁止)		須田 節 011-752-7217
申し込み要領 〒、住所、氏名、Tel、年齢を書いて葉書(家族連名で申し込み、1月2日必着。 〒007-0840 札幌市東区北40条東9丁目1-13 須田節宛 TEL・FAX 011-752-7217						
2008年 1月20日 (日)	「北大研究林」観察会 冬の野鳥と冬芽の観察	苫小牧市 北大研究林	北大研究林駐車場 10:00集合~12:00解散 必要に応 じて昼食持参	JR苫小牧駅前バスターミナル市営バス 9:12発「01交通部前」行 「美園4丁目」下車徒歩30分 無料駐車場有	当日早朝	明野幸久 01238-4-2460 谷口勇五郎 0144-73-8912
2008年 2月2日 (土)	「萩の里自然公園」観察会 冬芽と動物の足跡探し	白老町 萩の里自然公園	萩の里自然公園駐車場 10:00集合~12:00解散 必要に応 じて昼食持参	JR萩野駅より徒歩10分		新岡幸一 0144-83-2992
2008年 2月10日 (日)	「西岡公園」観察会 冬の水源トレッキング	札幌市豊平区 西岡公園	西岡公園管理事務所前 10:00集合~12:00解散 カンジキ・スキーは各自持参 一般参加者で用意できない方は1週 間前まで	地下鉄南北線 澄川駅発「澄73」 「西岡水源」下車		佐藤佑一 011-881-5336
2008年 2月17日 (日)	「冬の円山公園」観察会 冬に耐える植物	札幌市中央区 円山公園	地下鉄東西線円山公園駅 1階バス 待合所 10:00集合~12:00解散	地下鉄東西線 円山公園駅下車	原則1週間前	山形誠一 011-551-5481
2008年 3月16日 (日)	「真駒内公園」観察会 (親子・子供特集) ゲームをしながら雪からアイ スクリームを作ろう。春を感 じて雲を作ってみよう。	札幌市南区 真駒内公園	真駒内公園 屋外競技場駐車場 時計塔前 10:00集合~12:00解散 雪の入らない靴、替え手袋 はがきで申し込み 小3以下は保護者同伴	地下鉄南北線 真駒内駅から 定鉄バス「南90」、「南95~98」乗車 「真駒内競技場前」下車		須田 節 011-752-7217
申し込み要領 〒、住所、氏名、年齢、 を書いて葉書あるいはfaxで申し込み。3月10日締め切り。 宛先 〒007-0840 札幌市東区北40条東9丁目1 3 須田節 /fax 011-752-7217						
2008年 3月23日 (日)	「根志越排水路周辺」観察会 ヒシクイを送る・北帰行のヒ シクイ観察とゴミ拾い	千歳市 根志越排水路周 辺	JR千歳駅前 9:00集合~13:00解散 千歳市環境課共催・定員25名 葉書で申し込み	千歳駅前より無料バス運行 応募者多数の場合は抽選	当日早朝	明野幸久 01238-4-2460
申し込み要領 〒、住所、氏名、年齢、 を書いて葉書で申し込み。3月22日締め切り。 宛先 〒066-6868千歳市役所環境課自然環境係 宛て 0123-24-3131						

協議会行事他

年月日	テーマ	観察地・開催地	集合場所・時刻	内 容	連絡先
11月24日 (日)	忘年会 来年度の鋭気を養おう	札幌市北区北7西4 丸増ビル地下1階	笑笑(わらわら)札幌北口駅前店 開始 18:00~20:00終了	詳細については別掲載の案内をご覧ください(p.9)	須田 節 011-752-7217
2008年 2月3日 (日)	救急救命講習会 とっさの時に うろたえないように	札幌市中央区北2西7 かでの2・7 920会議室	かでの2・7 920会議室 講習時間 9:00~16:00 要昼食	詳細については別掲載の案内と同封パン フをご覧ください(p.13)	須田 節 011-752-7217

各行事の詳細、申込については、同封の案内及び別掲載の案内をご覧ください。

【事務局だより】



- ☆ 2007年自然観察指導員講習会が開催され、23名（2008年度入会1名含）の方が北海道観察協議会に入会されました。新進気鋭の方々で活躍が期待されます。
- ☆ 救急救命講習会を'08年2月3日に行います。詳細は同封のチラシをご覧ください。受講経験のある無しに関わらないで、多くの方が受講しましょう。もしもの時に命を救えるかもしれません。
- ☆ 忘年会を11月24日(土)「笑笑(わらわら)」で開催します。
札幌市北区北7西4 札幌北口駅前札幌丸増ビル地下1階 Tel 011-717-2088
午後6時～8時 会費は男性3,300円女性3,000円
申込は事務局011-752-7217へお願いいたします。申込締切11月22日(木)
ご都合をつけて、是非、出席をお願いいたします。人の和が広がります。
新しく会員になられた方は、出席されると会の様子がよく分かります。
- ☆ 観察会の報告をホームページに掲載しております。観察会の様子や出会った植物・動物の写真も一緒に載せております。各観察会2～3枚でも印象が違いますのでぜひ、お寄せください。
E-mail hzx01204@nifty.com へお願いします。

【理事会だより】 <理事会議事録から抜粋>

第3回理事会 '07/10/ 5 環境プラザ研修室

- ・「滝野の自然に親しむ集い」の参加者は総勢70名ですが、指導員が少なく多くの参加が望まれます。赤字分については来年度は受益者負担の方向にします。
- ・地方研修会（西岡公園のトンボ）は横山透氏を講師に、有意義に実施されました。
全道研修会（サンル）は 他団体のサンル観察会や3連休などの要因が重なり、少数の参加者のために中止になりました。
来年度の研修会の希望を募りますので、研修部へ連絡をお願いします。
- ・2008/9/26所沢高校の野幌森林公園観察会は、北海道の自然について学ぶ要素を入れたプロジェクトチームを結成します。多くの指導員のご協力をお願いいたします。
- ・来年度は理事改選にあたります。理事3名・理事以外3名の計6名が選考委員です。理事会の承認を受け、選考委員長は選考委員の互選で選出されます。
- ・観察会の追加は、遠山さんが連絡先のウトナイ湖 12/12と1/3です。

北海道自然観察協議会のホームページ	http://www.noc-hokkaido.org/		
会費や寄付は	----->	郵便振替口座	02710-1-8768 北海道自然観察協議会
	----->	会 計	畑中 嘉輔 〒062-0033 札幌市豊平区西岡3条13丁目12-13 /Fax 011-581-5439
観察会保険料は	----->	郵便振替口座	02770-9-34461 北海道自然観察協議会観察保険料
	----->	観察会担当会計	引地 輝代子 〒002-8022 札幌市北区篠路2条5丁目8-25 /Fax 011-773-2170
観察会報告書・資料は	----->	観 察 部	山形 誠一 〒064-0946 札幌市中央区双子山1丁目12-14 011-551-5481 E-mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp
研修会関係は	----->	研 修 部	大表 章二 〒048-1301 磯谷郡蘭越町蘭越町852-23 0136-57-5610
退会、住所変更の連絡他は 事故発生等緊急時は	----->	事 務 局	須田 節 〒007-0846 札幌市東区北40条東9丁目1-13 /Fax 011-752-7217 E-mail zan00711@nifty.com
投稿や原稿は	----->	編 集 部	北海道保険保証 011-222-0877（日・祝祭日は休み） 竹林 正昭 〒099-2103 北見市端野町3区378-3 /Fax 0157-56-3357 E-mail hzx01204@nifty.com

表紙写真 竹林正昭



自然観察:2007年 11月 15日 / 第85号 年4回発行
(会員の「自然観察」購読料と郵送料は会費に含まれています)
発行 **北海道自然観察協議会**
編集 北海道自然観察協議会編集部

